

当健康保険組合の平成29年度の決算が、7月6日に開催された組合会で可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

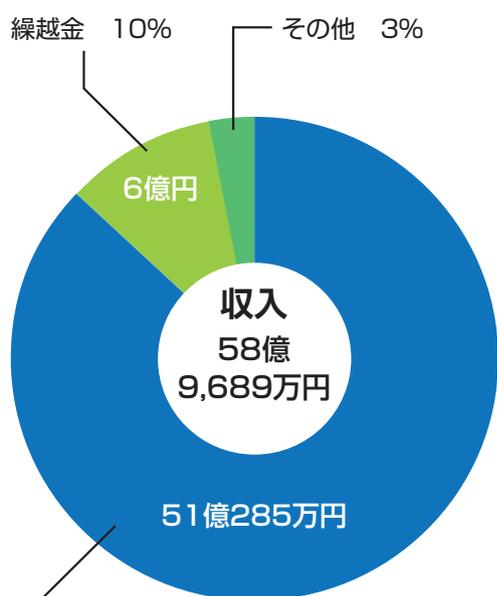
平成29年度 決算のポイント

● 一般勘定

科目	収入	
	(単位：千円)	(単位：円)
健康保険収入	5,102,853	554,899
調整保険料収入	95,467	10,381
繰越金	600,000	65,246
繰入金	0	0
国庫補助金収入	3,502	381
特定健康診査等事業収入	20,812	2,263
財政調整事業交付金	46,848	5,094
雑収入	27,404	2,980
合計	5,896,886	641,245
経常収入合計	5,153,411	560,397
経常収支	115,489	12,559

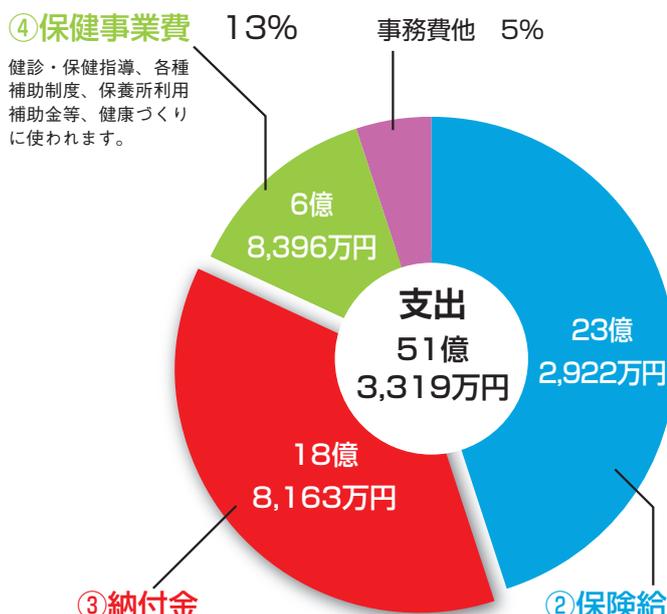
科目	支出	
	(単位：千円)	(単位：円)
事務費	117,710	12,800
保険給付費	2,329,221	253,286
納付金	1,881,625	204,613
保健事業費	683,957	74,375
還付金	315	35
営繕費	36	4
財政調整事業拠出金	95,217	10,354
連合会費	2,137	232
積立金	20,000	2,175
雑支出	2,973	323
合計	5,133,191	558,198
経常支出合計	5,037,922	547,838

基礎数値	被保険者数 9,196人
平均標準報酬月額 431,506円	健康保険料率 1000分の78



①健康保険収入 87%

被保険者と会社から納めていただく保険料です。平成29年度の保険料率は7.8% (78/1000) を折半負担していただきました。



③納付金 37%

高齢者医療制度への拠出金となります。多くの健保組合が赤字となっている原因です。

②保険給付費 45%

病気やけがをしたときの医療費・手当金として使われます。

● 介護勘定

科目	収入	
	(単位：千円)	(単位：円)
介護保険収入	525,664	100,337
繰入金	30,000	5,726
合計	555,664	106,063

科目	支出	
	(単位：千円)	(単位：円)
介護納付金	530,712	101,300
介護保険料還付金	48	9
合計	530,760	101,309

基礎数値	介護保険の対象となる被保険者数 5,144人
平均標準報酬月額 484,075円	介護保険料率 1000分の12

決算のあらまし

当健保組合の平成29年度決算は、経常収支で1億1,549万円の黒字となりました。保険料率引き上げにより保険料収入が増加したことで、納付金の負担が増加したものの低い水準にとどまったことから、経常黒字を維持することができました。しかし黒字幅は前年度よりも約2億1千万円縮小しています。

収入

みなさんと会社から納めていただく健康保険料が、健保組合の主な収入です。平成29年度の当健保組合の①**健康保険収入**は**51億285万円**。平成29年度は、保険料率を0.2ポイント引き上げたことから、28年度よりも5.3%増加しました。このほか、昨年度からの繰越金6億円を収入計上しています。繰入金はありません。

支出

健保組合の主な支出は、みなさんとご家族が病気やけがをしたときの医療費や手当金などの②**保険給付費**で、**23億2,922万円**です。前年度よりも8.1%の大幅増加となり、医療費が上昇傾向にあります。

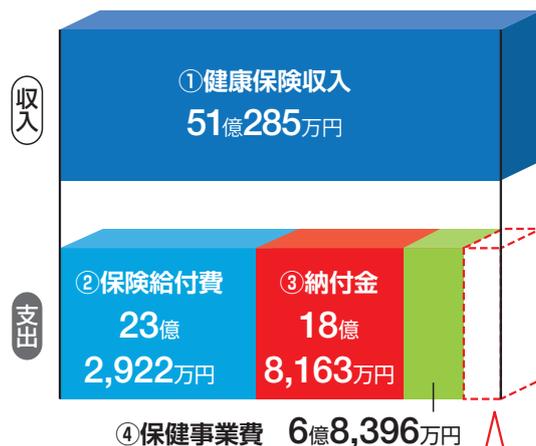
保険給付費に次いで大きな支出が、高齢者医療制度を支えるために支払う費用③**納付金**（前期高齢者納付金・後期高齢者支援金・退職者給付拠出金）で、**18億8,163万円**です。

当該年度の納付金は2年前の前期高齢者（65歳～74歳）医療費と健保組合の前期高齢者加入割合を基に算出される概算分と、それにより2年前に納めた当時の概算分の精算から成り立ちます。これは基礎となる全国の前期高齢者医療費の決定が2年遅れとなるためです。当健保組合においては、平成29年度は平成27年度の前期高齢者医療費が比較的良かったため平成29年度概算分が低めに収まり、さらに平成27年度の精算も約2億5千万円の戻りとなりました。それでも、昨年度より16.1%増加しています。

各種健診・保健指導等の健康づくり事業の費用としては、④**保健事業費**6億8,396万円を計上しました。

高齢化の進行と医療の高度化により高齢者医療費は急増を続け、それを支える健保組合の納付金負担は増加の一途をたどり、全国の健保組合は大変厳しい財政状況に陥っています。当健保組合は一時的に経常黒字を維持していますが、納付金の負担が今後重くなることは確実で、財政を圧迫することが懸念されます。

納付金は自助努力が及ばない支出ですが、保険給付費はみなさんの健康保持増進や適正な受診により支出を抑制することができます。当健保組合の保健事業を活用し、医療費の節減にご協力をお願いいたします。



保険給付費も納付金も増加していますが、健康保険収入が増加したため経常黒字を維持できました。

決算のポイント

- 健康保険収入は、保険料率の引き上げにより5.3%増加しました。
- 保険給付費・納付金いずれも増加しましたが、経常収支で1億1,549万円の黒字となりました。
- 引き続き健康管理事業に重点を置いて保健事業を実施しました。

平成29年度は保険料率7.8%〔1000分の78〕で、経常収支では約1億2千万円の黒字決算に終わりました。2年連続の経常黒字となり、過去の積立金を取り崩すことなく、当年度の保険料収入で運営することができました。

ただし、高齢化の進行、高額薬剤が複数認可されていること、後期高齢者支援金の計算方法が総報酬割に切り替えられたことなどを勘案すると、決して楽観視できません。とくに、当健保組合加入の前期高齢者医療費が平成29年度は増加していることから、前期高齢者納付金の急増は避けられない見通しです。

当健保組合の保険料率は、健保組合全体の平均保険料率9.215%〔1000分の92.15〕、協会けんぽの平均保険料率10.0%〔1000分の100〕と比較すると、低い水準となっています。安定した財政運営のため、当健保組合では少しずつ保険料率を引き上げていく方針としております。

組合員のみなさんにはよい生活習慣を取り入れ、健診や保健指導を活用し、ジェネリック医薬品を選ぶなど医療費の節減に努めていただきますようにご理解とご協力をお願いします。当組合では今後も健康づくりをサポートする各種保健事業に力を入れてまいります。